



次年度に向けての 園地づくり

2月になり出荷も後半を迎えます。最

後まで高品質なみかんの出荷を心掛けま
しょう。今月は土づくり・根づくりの大
事な時期です。特に今年度については、
乾燥などの影響により樹勢の低下が見ら
れます。樹勢回復をすることで隔年結果
防止にもつながります。土壌改善に努め
ましょう。

《貯蔵管理》

今年度は着色が進んでいない果実が多
くみられます。貯蔵庫内の環境を温度5
〜8℃、湿度85%にすることで着色も進
みます。また、労力はかかりますが2週
間に1度程度は腐敗果の除去と貯蔵箱の

差し替えを行い、貯蔵管理を徹底してく
ださい。

《間伐・縮伐》

密植園は作業効率が低下するだけでな
く、着色の遅れや果実品質の低下につな
がります。また、効果的な防除も難しく
なり、病害虫被害の危険が増すので間伐
や縮伐を行ってください。1度に間伐す
ると収量の大幅な減少につながりますの
で、間伐予定の樹はまず縮伐をし、2〜
3年かけて間伐を実施しても良いです。

《土づくり》

土づくりの目的は、健全な根（細根）

を増やすことで施肥の吸収効率を高め、
その結果として枝・葉が充実し高品質果
実の安定生産に繋がります。まずは、園
地ごとに土壌分析を行い、園地の状況を
把握しましょう。

有機物を投入することで土壌がやわら
かくなり、通気性・保水性が向上し、新
根が発生しやすい環境となります。

また、みかん栽培に適した土壌pHは5.5
〜6.5とされています。土壌が酸性化して
しまうと、根の発根や微生物の活動が抑
えられてしまいますので土壌改良を行
いましょう。

・キノックス

2000 kg / 10 a

・苦土セルカ2号

120 kg / 10 a



果樹林産センター
小杉 真啓